



東京都社会福祉事業団

事業団通信

Vol.5

平成28(2016)年

4月発行



くりのみ学級外観南西より

連携型専門ケア機能モデル事業について

石神井学園では27年度より、連携型専門ケア機能モデル事業を東京都から受託しています。本事業は、虐待によるトラウマや愛着障害等のある児童に対し、生活支援、医療、教育を一体的に提供する「総合環境療法」の考え方をもとに支援を行っています。

対象は、児童養護施設で生活をしている、重篤な症状のある児童で、思春期を迎える前の最長2年間で愛着の再形成を図ることから、原則、小学校5年生※（入所時点）までとしています。当園での支援終了後は、原籍施設での生活に戻ります。

本事業では、精神科医師や心理士のアセスメントに基づき、治療的な視点を取り入れた生活支援をしています。教育面では、園内にある小学校の分教室に通学し、通常の教科学習の他、自己肯定感の向上や人間関係の形成に着目した「自立活動」の取組を行っています。生活、医療、教育の3つの主体が情報を共有し、安全で安心な生活環境の下、それぞれの児童に合わせて配慮された生活と個別の支援を行うことで、問題行動の根本的な要因である虐待に起因する様々な問題を改善することを目指して、取組を続けていきます。

※小5児童については、小学校卒業までに支援の効果が見込める児童を対象とする



治療の視点

- 問題行動の原因である、「愛着障害」や「トラウマの問題」を総合環境療法により改善
- 生活場面での支援を基盤として、3部門が一体的に支援
- 原籍施設復帰のための支援

アセスメント

- 3部門でのアセスメント
→ ケース会議で合議
- 定期的に実施し、ケア方針・支援計画の見直し

反映

生活支援

- 児童に安全で安心な生活環境を整える
- 日々の生活や集団活動等を通じて、生活習慣の確立、問題行動の改善、愛着の再形成を図る。

医療

- 心理治療、精神療法（※生活場面での心理ケアを基本とし、集中的治療が必要な場合に実施）

教育(学校)

- 自己肯定感の向上、人間関係の形成
- 生活習慣の確立
- 基礎学力の向上

原籍施設 復帰支援

一体的支援

症状の改善

東京都石神井学園

石神井学園は、石神井公園や図書館等多くの文教施設に囲まれた場所に建っています。

明治5年（1872年）に東京府が創設し、渋沢栄一が長く院長を勤めた養育院の巣鴨分院が前身で、昭和17年（1942年）に現在地に移転しました。現在の入所定員は、134名です。

子供たちは地域の人々に見守られながら恵まれた環境のなかで成長しています。

支援内容

家庭的な寮運営	本園は、幼児から高校生までの子供たち8人を単位とする寮で、家庭的な雰囲気のもと、職員この他、地域の中のグループホームを3ヶ所運営しています。	とともに生活しています。
一人ひとりを尊重した支援	恵まれた自然環境の中で、一人ひとりの子供の意向や個性を尊重し、子供自身が真に大切にさに適った質の高いサービスの提供に努めています。職員は子供たち一人ひとりの個性と発達の	れていると感じる「児童の最善の利益」状態を考えて支援しています。
子供の安心、安全を守る	学園で暮らす子供たちの人権の擁護を実現するために、「第三者サービス評価」「苦情解決シス会活動」など、園全体で権利擁護に取り組んでいます。	テム」「子ども相談員」「子供たちの自治
アフターケアの充実	子供たちがいつまでもしあわせにと願い、卒園後のアフターケアに取り組んでいます。相談、応じて一時的に園に帰ってきた子供への支援を行っています。	訪問、家族や会社との連携、また必要に
公的な役割	これまで、都立施設が担ってきたセーフティーネットとしての公的な役割を引き続き果たして子供たちが抱えている心の傷を癒し、行動や情緒が安定するよう支援しています。高度な支援課題を有する高齢児童の支援をしています。	いきます。
地域との連携	地元の練馬区からショートステイ及びトワイライトステイ、豊島区と中央区からショートステ専用スペースで家庭的な支援をしています。	イの委託を受けています。

設置年月：明治5年
所在地：〒177-0045 東京都練馬区石神井台 3-35-23
事業種別：指定管理事業 第1種社会福祉事業 児童養護施設 定員134名
都型グループホーム2カ所 国型グループホーム1カ所
第2種社会福祉事業 地域子育て支援事業 定員7名

<http://shakujii-gakuen.tokyo/>

石神井学園

検索



東京都石神井学園の1年

April
4月

児童福祉施設球技大会（7月）
「江戸っ子杯」（野球・ドッジボール・バレーボール）
日頃の練習の成果を発揮してがんばります。

May
5月

お泊り会（8月）
小学生みんなで、学園のグラウンドやアリーナにお泊りです。
石神井公園でウォークラリー、夜は石神井公園までナイトハイク！

June
6月

夏祭り（8月）
小学生のお御典からスタートして、出し物ショーと模擬店のあとは、花火大会で盛り上がります。

July
7月

児童福祉施設球技大会（11月）
「江戸っ子杯」（サッカー）
日頃の練習の成果を発揮してがんばります。

August
8月

地域交流スポーツ大会（11月）
地域の皆さんと一日楽しく過ごします。
27年度は卓球大会を行いました。

September
9月

クリスマス会（12月）
たくさんのご馳走とサンタクロースからのプレゼントで楽しい時間を過ごします。

October
10月

もちつき大会（1月）
みんな交代で杵でお餅をつきます。
できたてのおいしいお餅をお腹いっぱい頬張ります。

November
11月

卒園卒業を祝う会（3月）
小学校・中学校の卒業を迎える子供たちを祝うとともに、学園を巣立っていく子ども達を送る会です。
様々な出し物で、にぎやかに新たな門出を祝います。

December
12月

寮・フロアごとの外出や宿泊旅行
子ども会の遠足
お楽しみの外出や外食、宿泊旅行などは、寮やフロアごとに行きます。
子ども会の遠足も楽しみです。

January
1月

February
2月

March
3月

グループホーム「さつき寮」の取組

Staff Interview

グループホームさつき寮では、寮独自で様々な取り組みを行っています。平成24年、25年の2年間では、子ども達に正しい性知識を伝える性教育に取り組みました。

月1回のペースで、テーマやねらいを決めて、24年は「自分の体と自分の心は自分のもの」、25年は「きみたちが生まれてきたから出会うことができたよ、ありがとう」の職員からのメッセージを込めて行いました。「さつきさんちの身体（からだ）のはなし」と題してのこの取り組みで、子ども達に職員の思いを伝え、また、子ども達も正しい知識を身に付け、成長していくことができたと感じています。

2年間の取り組みを活かして、平成26年は、食育に取り組みました。「さつきさんちのからだのはなし たべもの編」では、命をいただくことになる「食べること」の大切さ、楽しみと同時に、生きる上での基本であることを伝えていくため、料理や様々な体験に取り組みしました。

そして、平成27年は、子ども達の未来、将来のために、いろいろな職業を知ってもらい、社会の仕組みを伝えていくため、「さつきさんちのからだのはなし おしごと編」に取り組みしました。

子ども達ひとりひとりが、やりたい仕事を選び、その職業について学び、また、ボランティアさんの協力を得て実際にその職業を体験しました。

寮内で使える紙幣を作り、給料をもらって、買い物をしたり、お金をためるといった経験を通じて、将来について考える機会を作りました。

子ども達は、最初は戸惑いもありましたが、それぞれの取り組みを通じて様々な体験をして、楽しく学ぶことができたと思います。

これからも、子供たちの生活を充実させていけるよう取り組んでいきたいと思っています。



養護係
石井 彩香さん（6年目）

心理職からケアワーカーへ

私は、平成20年度に心理職として東京都社会福祉事業団に入職しました。実は、入職前は心理職ではなく、直接処遇職員（ケアワーカー）として働くことを目指していました。しかし、大学院2年次に、非常勤心理職として児童養護施設で勤務した経験から、児童養護施設の心理職という仕事に強い関心を抱き、悩んだ末に心理職として働くことを決めました。

平成20年4月に石神井学園に配属され、心理職としての仕事に7年間従事しました。虐待による心の傷を抱えた子どもたちへの支援、その子どもたちを最前線で支えるケアワーカーのメンタルヘルスなど課題は多く、壁に直面することも多々ありましたが、共に働く先輩や仲間たちの存在が大きな支えとなり、ここまで続けていくことが出来ました。

その7年間で全ての仕事をやりきったとは到底言えませんが、新たな可能性にチャレンジしてみたいと考え、サブマネージャー選考試験を受験しました。

そして、平成27年度からはサブマネージャーとして、新しくスタートした連携型専門ケアモデル事業に配属されています。現在は、心理職としてではなく、かつて目指していたケアワーカーとして働いており、日々子どもたちの生活を支え、愛着を育むアプローチをするべく、奮闘しているところです。同じ施設にいながら、心理職からケアワーカーという立場に変わったことに戸惑いがないわけではありませんが、心理職としての経験やその中で培ってきたものが、今の仕事にも活かしているのではないかと思います。

今後も、子どもたちの最善の利益を常に考え、これまでの経験と新たな知識とを融合させながら、様々な課題に取り組んでいきたいと考えています。



連携型専門ケアモデル事業入所児童への生活支援を行うせせらぎ寮外観



利用者児童 居室



養護係
藤岡 孝雄さん（9年目）



児童作品 おりがみ



リビングルーム

東京都 八王子福祉園

設置年月：昭和47年4月1日
所在地：〒192-0153 東京都八王子市西寺方町76番地
事業内容：指定管理事業 第1種社会福祉事業 障害者支援施設 定員160名
生活介護 定員180名（入所160名・通所20名）
短期入所事業 定員10名
自主事業 第2種社会福祉事業 第2種社会福祉事業 特定相談支援事業

http://www1.ttcn.ne.jp/

八王子福祉園



八王子福祉園は、利用者一人一人が安心して生活し、楽しく活動することができる安全・快適な環境づくりを進めるとともに、民間施設では対応が難しいニーズにも全職員が積極的な取り組みを進めています。

Staff Interview

医療支援が必要な方や高齢の方が生活されているため、医療面において特別な配慮が必要になります。

8係は重介護棟に所属され、胃ろう設置者が7名、経口摂取者が8名。平均年齢は54歳となっています。27年度のバスハイクは、8係では初めて利用者様全員で参加しました。今までのバスハイクでは、胃ろう設置者は参加できませんでした。しかし、私自身「私が利用者様なら、バスハイクに行きたい！」と言う気持ちになり、話をしてみると他の職員も同じ思いを持っていたことがわかりました。そこで、全員参加に向けてなぜできないか理由をあげ改善していく取り組みをしました。普段、胃ろう支援に当る健康推進科や他係との調整、利用者様と職員を2班に分け、一部職員が2班掛け持つといった工夫で職員の手をあくしました。虚弱傾向の利用者様が多いため、外出先ではグループ行動を基本として、不測の事態に複数の職員で対応できるよう連携し、また、歩行できる利用者も、時間や範囲を決めて個別で行動できる工夫をしました。

当日は体調不良者もなく、無事全員で参加できました。初めての試みだったため、健康推進科や8係内で何度も話し合い、職員が一丸となって全員参加に向けて取り組みました。これからも、利用者様の立場となって、より良い日々の暮らしを考え、提供していきたいと思っています。

利用者様とのコミュニケーションが難しい為、利用者様の立場になって支援するよう心掛けています。また、時間にとらわれ過ぎず、ゆっくり丁寧に関わることも大切にして、利用者様の思いを汲み取れるよう努力したいと思っています！！

全員でバスハイクへ行ってきました！

胃ろうとは…

口から食事のとれない方や食べてもむせ込んで肺炎などを起こしやすい方に直接栄養を入れるためにお腹につくった小さな口のことを言います。鼻からのチューブに比べ、本人の苦痛や介護者の負担が少なく、のどにチューブがないため、口から食べるリハビリや言語訓練が行いやすいというメリットがあります。

支援第八係
廣瀬 智田さん（3年目）

園には様々な障害特性がある方が入所されています。また、入所されている利用者の平均年齢も年々高くなっており、求められる支援も多様化しています。今回は特色のある支援を行っている棟の職員の方に日々の業務や、やりがいについて話を伺いました。

相談支援室『ポレポレ』にインタビュー！！

八王子福祉園の地域に向けた“顔”として大切な役割を果たしている相談支援室『ポレポレ』のコーディネーターお二人にインタビューをしました！

Q—まず、『ポレポレ』の名前の由来は？

沢田：スワヒリ語で『ゆっくり、のんびり』という意味で、職員公募の中から利用者様の一人に選んでいただきました。

Q—相談支援事業とはどんなお仕事ですか？

沢田：主に八王子市にお住いの障がい当事者の生活についての困り事や、福祉サービスに関する相談を受け、支援を行っています。

—なるほど。支援者がゆったりと構えて、相談する方が安心感を持てるようにと、この名前が付けられたんですね！



左から沢田哲也さん（8年目）、中美大輔さん（13年目）
非常勤山下純子さん（3年目）

Q—お二人は、地域コーディネーターも兼務されていますが、コーディネーターはどんなお仕事ですか？

中美：コーディネーターは、園利用者の地域生活移行を進める役割、園と地域を結ぶ窓口としての役割を持っています。

Q—とても大切な役割ですね！このコーディネーターに任命された時の心境は？

沢田：「やったー！」相談支援の仕事希望していたので、嬉しかったです。

中美：突然の辞令で、「無理だ〜！」と思いました。8割くらい不安でしたが、どんな経験値を積めるだろうかという期待も2割くらいあったかな？（笑）

—ものすごく対照的ですね（笑）そんな対照的なお二人だからこそ、お互い補い合って良いチームになっているのですね！

Q—最後に、これからの意気込みを川柳で教えてください！

広げたい みんなの笑顔と 町づくり 沢田哲也

支えたい こんな私で 良かったら！ 中美大輔

Staff Interview

強度行動障害などをもち、特別な支援が必要な方が生活されている棟の支援では、高い専門性が求められます。

私は八王子福祉園で働き始め現在で2年目になります。1年目に自閉症スペクトラムの利用者様の担当になり、知識も経験もなかった私は利用者様の行動を理解することが出来ず、どのような支援をしたら良いのかが分かりませんでした。そこで先輩職員に話を聞き、過去の記録の振り返り、自閉症スペクトラムに関する本を読んで少しずつ利用者様のことが分かるようになりました。しかし、分かるようになったとは言ってもほんの一部であり、利用者様の行動も日々変わっていきます。その日々変わっていく利用者様に寄り添い、支援をすることで利用者様の笑顔を引き出すことが出来ると思っています。

先輩に聞くこと、本から学ぶことも、もちろん大切です。その知識、経験からこうしたらもっと利用者様を笑顔にできるのではと自分なりに支援を工夫して、失敗して、先輩に相談して、また工夫して。その先に利用者様の笑顔が見られた時に最高にやりがいを感じます。

利用者様の笑顔が
やりがいに！



支援第九係9棟
岩澤 優佑さん（3年目）

自閉症スペクトラム障害（ASD）とは…

自閉症、アスペルガー症候群、その他広汎性発達障害が含まれます。この障害のある方は相互的な対人関係の障害、コミュニケーションの障害、興味や行動のこだわりの3つに特徴が現れます。生まれつきの脳の機能障害が原因と考えられており、症状の強さによっていくつかの診断名に分類されます。しかし、これらを明確に区別することが難しいため自閉症スペクトラム障害に一本化されることになりました。

八王子福祉園 OJT の取り組みから

八王子福祉園では、OJT の取り組みとして、新人職員にトレーナーをつけて、サポートに当たっています。

丁寧に利用者様とのかかわり方を教えてください。トレーナーや先輩職員のおかげで、楽しく働いています。これから、少しでも利用者様や職員の皆様の力になれるように努力していきます。

のい
中川 洋平さん
（平成27年4月1日入職）左



トレーナー
望月 伊織さん（9年目）右

利用者様にとっては、1年目も8年目も関係ありません。そんな中、一生懸命利用者様支援をしている新人職員さんを見ていると励みになり、自分の利用者様やチームを支える力の原動力になっています！

八王子福祉園 2015年度ベストショット

●1月
お正月の福笑い大会の一コマです！1棟



●6月
八景島シーワールドでイルカショーを見てにっこりです！5棟



●7月
盆踊り大会は、自治会と共催で行われます。4棟



●7月
ばっちり笑顔です！9棟



●8月
ホビー活動で、スイカ割りを行いました！活動支援係



●8月
棟での花火大会をしました。やっぱり夏は花火です！6棟



●8月
花火大会の様子。のいでは、毎年の恒例行事です！のい



●5月
奥多摩湖への外出。新緑の山々が綺麗でした！3棟



●10月
全棟バスハイクを10月に行いました。ぶどう狩りの途中、ツーショット写真です！7棟



●10月
全棟バスハイクで東京スカイツリーに行ってきました！通所とも



●10月
ハロウィンカフェしました！職員が焙煎した豆のコーヒーを楽しみました。10棟



●11月
福祉園祭のフィナーレのダンスをお揃いのTシャツを着て楽しみました！Be



●12月
12月毎年恒例のクリスマスパーティーをしました！らら



●2月
喫茶店でジュースを飲んでゆったりすごしました！8棟



人材育成の取組

キャリアパスの明確化

事業団では、固有職員を中心とする組織・人員体制への移行に向けて、職員一人一人が高い専門性を発揮し、利用者や地域のニーズに的確に応えられる職員を計画的かつ効果的に育成することを目的として、平成 27 年 3 月に「事業団人材育成方針」の改定を行いました。

この中で、事業団における人材育成の取組を推進するため、キャリアパスの明確化を打ち出し、職員のキャリア形成（さまざまな経験をし、その経験を通じて成長すること）について、記載をしています。ここでは、「事業団人材育成方針」におけるキャリアパスの概要等をご紹介します。

キャリアパスの明確化（構築）

キャリアパスとは、職級に任用するために必要な一連の業務経験とその順序などであり、どんな仕事をどれくらいの期間担当し、どの程度の習熟レベルに達すれば、どういうポストに就けるのかという道筋や基準・条件を明確にするものです。

キャリアパスを進める上では、職員一人一人が「仕事を通じてどういう自分になりたいか」という職員としての到達目標を、主体的に考えることが大切です。

事業団では、「組織・人事制度改革」によって職及び職責について見直しを行ったうえで、それぞれの職級（職層）に応じた到達目標を明確にしました。

計画的かつ効果的な人材育成を進めるため、職層に応じた到達目標と求められる能力について職員に浸透を図り、事業団全体で共有し、職員が目標に向かって業務遂行や能力開発ができるよう、キャリアパスのしくみを明確化します。

職層に応じた「到達目標」と「求められる能力」

事業団では、平成 30 年度からすべての施設において、新たな管理スパンによる事業団独自の組織体制である「部門長・グループリーダー制」への移行を予定しています。

この組織制度移行を踏まえ、新たな職責を担える人材を育成するため、職層に応じた「到達目標」と「求められる能力」を明示し、職員と組織で共有することとしました。

このことにより、職員は自らの能力開発の目標やキャリアアップに向けた取組の設定が容易になるとともに、管理監督者については、部下職員の能力開発や人材育成の目標・取組状況をより適切に把握することが可能となります。

人材確保・育成委員会

事業団では、各園の人材確保・育成に関与する事業団職員によって構成する「事業団人材確保・育成委員会」を設置・運営しており、OJT の推進、研修の充実、採用 PR 事業をはじめとした人材の確保・育成に関して企画・検討を行っています。

今年度は「OJT 推進部会」「研修部会」「人材確保部会」の 3 つの部会を設け検討等を行うとともに、委員会全体で研修等の企画運営を行い、3 月までに今年度の活動を終了しました。

今年度は委員会を 10 回開催し、「新任職員育成計画書」の改定と「到達目標達成度チェックリスト」策定の検討、「正規職員（3 年目）研修」の企画・運営及び事業団研修の評価・見直しを行いました。

また、質の高い職員を安定的に確保するため採用 PR 事業の一環として、各委員が教育機関、養成校に訪問し、直接採用の案内を行う「学校訪問」（14 校）や、採用内定者交流会の企画・運営など、非常に多くの活動に精力的に取り組みました。



平成30年度 新任職員育成計画書					
氏名	所属	職級	職名	職責	備考
田中 一郎	施設長	5 級	施設長	施設全体の運営	
山田 花子	マネージャー	4 級	マネージャー	施設内の業務	
佐藤 健太	サブマネージャー	3 級	サブマネージャー	施設内の業務	
鈴木 美咲	一般職員	2 級	一般職員	施設内の業務	
高橋 大輔	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
伊藤 由香	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
渡辺 拓也	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
田村 正樹	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
石川 陽子	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
中村 優子	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
千原 孝太郎	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
石神井 学園	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
日野 療護園	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
東村山 福祉園	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
川村 温子	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	

到達目標達成度チェックリスト					
氏名	所属	職級	職名	職責	備考
田中 一郎	施設長	5 級	施設長	施設全体の運営	
山田 花子	マネージャー	4 級	マネージャー	施設内の業務	
佐藤 健太	サブマネージャー	3 級	サブマネージャー	施設内の業務	
鈴木 美咲	一般職員	2 級	一般職員	施設内の業務	
高橋 大輔	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
伊藤 由香	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
渡辺 拓也	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
田村 正樹	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
石川 陽子	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
中村 優子	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
千原 孝太郎	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
石神井 学園	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
日野 療護園	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
東村山 福祉園	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	
川村 温子	一般職員	1 級	一般職員	施設内の業務	

人材育成の視点に立った人事制度の運用

「事業団人材育成方針」では、キャリア形成の観点を踏まえた人事異動の実施や昇任といった採用から退職までを見据えたキャリア形成支援を進めることとしています。

人事異動

職員の視野の拡大と士気高揚という人材育成の観点等から職員の人事異動を行い、計画的なジョブローテーションを行うことにより、人材育成を図っていきます。

区分	職級	職名	異動（福祉職の場合）	
			施設種別間	施設間
正規職員	5 級	園長 ジェネラル マネージャー	必ず行う	異動あり
	4 級	マネージャー		
	3 級	サブ マネージャー		
	2 級	一般職員	必要に応じて行う	異動なし
	1 級（※）	一般職員	本人希望を除き異動なし	
契約職員			異動なし	異動なし

※福祉職以外の職種（事務職、心理職、栄養士）については、1 級職についても、必要に応じて施設間人事異動を行います。

昇任

運営に必要な人材を職級に応じて確保するため、昇任選考制度に基づき適正な選考を実施していきます。

職級	職名	職	職責
正規職員	5 級	園長 ジェネラル マネージャー	【施設経営の総括】 ・理事長の命を受け、施設経営の総括を行う。 ・管理職の業務量に応じて、施設長の他に、課長等を配置する。
	4 級	マネージャー	【監督業務】 ・園長（又は課長等）の命を受け、各部門（支援部門、管理部門等）を統括し、所属職員を指揮監督する
	3 級	サブ マネージャー	【指導業務】 ・グループの責任者として、担当業務を統括し、一般職員の指導的役割を果たす ・上司の指示により、グループをまとめ、困難な課題に対し、問題解決にあたる。
	2 級	一般職員	【判断業務】 ・実務に関する比較的高度な知識及び経験を基に、応用的判断を要する業務を遂行する。 ・自己の経験を生かし、1 級職及び契約職員の指導を行う。
	1 級	一般職員	【定型業務】（※契約職員と同等の業務） ・通常の業務に精通し、日常の定型業務を独立して遂行する。 ・自らの業務について、問題解決技法を身につけ、業務の改善や問題解決を実践する。

正規職員採用選考 （※契約職員 1 年目から受験可）	
契約職員 （3 年の雇用期間）	【定型業務】（※正規職員 1 級と同等の業務） ・通常の業務に精通し、日常の定型業務を独立して遂行する。 ・自らの業務について、問題解決技法を身につけ、業務の改善や問題解決を実践する。

三部会長より今年度の活動報告

新規職員を育成するにあたって、事業団全体で統一された育成計画書やチェックリストがあったほうがよいという意見があり、それを踏まえ、児童養護施設・障害者施設、どちらの施設に属する職員でも使用ができる様に事業団新規職員を対象とした育成計画書とチェックリストの作成をメインに活動してきました。

今年は事業団暦 5 年目という事もありましたが、OJT 推進部会の部会長に任命され、良い刺激を受け、私自身勉強することができた一年間となりました。育成計画書やチェックリストを作成するに当たって、各施設の現場の状況や研修体制について活発な意見交換が行うことができ、改めて事業団全体の施設の事をより深く理解することができました。

今後もこの経験を活かして、精進していきたいと思っています。

OJT 推進部会長 日野療護園 田村 正樹委員

研修部会では、正規職員 3 年目研修の企画及び実施と、事業団研修の見直し等について 1 年間取り組んできました。

正規職員 3 年目研修については、試行錯誤しながら準備を進め、受講生を含めた全ての方々の協力のおかげで、無事に実施することができました。この研修を通じて、研修等の進捗や、自分の考えを的確に伝えることの難しさなどを学ぶことができました。

また、事業団研修の見直しについては、各園の研修状況について情報共有しながら、より良い研修内容になるように意見を出し合いました。

事業団全体の研修について考えることで、研修に対する視野を広げることができ、非常にいい経験となりました。この経験をしっかりと職場で活かせるように努力していきたいと思っています。

研修部会長 千葉福祉園 中村 優子委員

平成 27 年度から養護担当係長として仕事をしています。

立場が変わり、役割が変わり、自分の足りない部分を見つめ直すことになった 1 年でした。学び、気づき、描き、変わる。今まさにその過程にいます。職場の上司から様々なことを教えていただいていますし、意識していると、他の職員からも様々なことを学ぶことも多いです。例えば、人を気遣うということ、現場が困らないように配慮しておくこと。当たり前に大切なことに改めて気づき、自分の中に浸透させ、実行に移すことを大事にしています。とはいっても、元来の私の性根もありますので、上手くできないこともある自分も認めつつ、全吸収の気概で毎日を送っています。



石神井学園 マネージャー
中原 孝太郎さん（18 年目）



日野療護園
サブマネージャー
石川 達也さん（18 年目）

サブマネージャーの仕事は、現場と管理・経営部門の間に立つ・間をつなぐことだと思っています。心掛けているのは、現場の声をしっかりと聞き、調整を行うことです。時には、現場から厳しい言葉をいただくこともありますが、直接的に介護を行い、一番身近なところで、利用者の生活を支えているのは、現場の職員です。ですので、その意見や思いを大切にしながら今後も職務を果たし、前へ進んでいきたいと思っています。

育児休暇を取得し、職場復帰してから 1 年が経ちます。現在、平日は日勤で勤務し、主に日中活動の運営と日中活動後の利用者の生活支援を行っています。

東村山福祉園は重度・最重度の知的障害児施設であり、日々の生活において、きめ細やかな配慮を必要とする利用者の方々と関わっていることから、チームで対応していく視点が不可欠です。この為、チーム内での日々のコミュニケーションを大切にしています。日頃から関わりを持つことが難しい利用者の方が、私のほうを振り向いて、支援を受け入れて下さった時などには、「この仕事をしていてよかった」と、大変やりがいを感じています。



東村山福祉園 正規 2 級
川村 温子さん（13 年目）

「採用 PR 事業」では、委員全員が学校訪問を行いました。今年度は正規職員外部公募を始めたため、昨年に比べ学校側も興味を示してくれた感じました。しかし、それでもなかなか厳しい状況が続く中、どのような工夫をしたらたくさんの人材が集まってくれるのか、「自分だったら…」と自分自身に置き換えながら部会で検討を重ねました。

「採用内定者交流会」は、人材確保部会の中で一番大きな活動でした。一人でも多くの方の内定者の方に 4 月から安心して来ていただけるような交流会、堅苦しくなく楽しんでいただけるような交流会を目指しました。多くの方の参加があり、それぞれのグループが楽しそうに話をしていた様子が印象的でした。

今年度人材確保部会として活動してきましたが、私にとっても貴重な経験となりました。皆で検討した事が活かされ、実を結んでくれる事を願っています。

人材確保部会長 小山児童学園 石川 陽子委員

事業団1年生！振り返ると…

片瀬学園

Q1. 今担当している仕事について

わたしは現在、幼児さんから高校生まで8名の子どもが生活するけやき寮に勤務し、児童の個別対応や関係機関との関わり、行事等の起案作成等を行っています。私は、子どもとの個別の時間を大切にしています。個別の時間を活用し、外出したり2人でお話をしたり、そういった活動を行うことで、子ども達一人一人が「自分は大切にされている。」と実感できるような環境作りを目指しています。また、各寮で行なう宿泊行事では、温泉とディズニーランドに行き、子ども達と共に楽しんできました。初めて遊園地に行く子どももあり、「楽しい!」「来られてよかったね!」と言って、食事や乗り物、買い物で大いに楽しんでいる様子でした。

Q2. 今だから言える不安だったこと

わたしは、実習などで養護施設に関わってこなかったため、知識も経験もほとんどありませんでした。そんな中、先輩職員からの助言や子どもたちの成長、研修などから沢山の事を学び、経験をしていくうちに、少しずつ不安も解消されました。また先輩職員のおかげで、児童とも良好な関係も築くことが出来ています。

Q3. 事業団のココが好き!

率直に意見交換をすることが出来る先輩職員に出会うことが出来ました。児童と過ごす時間や行事が多いです。研修や事例検討発表会、自立支援施設の見学に参加させて頂きました。



片瀬学園 (養護係)
長谷川 佑佳さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

勝山学園

Q1. 今担当している仕事について

私が担当している仕事は、主に児童の生活支援で、地域交流委員、小学生横割り活動にも携わせて頂いています。児童の生活支援は、言葉の通り衣食住に関する生活の支援はもとより各児童の課題を成長にあわせ解決できるよう計画を立て、その計画に沿った支援をするなどが大きな仕事です。また、地域交流委員や小学生横割り活動では納涼祭、長寿会との交流会、夏季鎌成など様々な行事の運営に関わっています。

一年目という事があり、全てが初めてで、先輩職員について行くのに必死でしたが、今年度で得た知識を来年度から活かせるよう取り組んでいきたいと思っています。

Q2. 今だから言える不安だったこと

短期大学卒業後すぐに働くという事で、新しい環境に慣れることができるだろうか、こどもたちとうまくやっていけるだろうか、など多くの不安がありました。

しかし今では、仕事の難しさを感じる事もありますが、児童の生活を支援する事をはじめとして、すべての仕事について新鮮味があって楽しく働く事が出来ています。

Q3. 事業団のココが好き!

先輩職員の方々は優しく、相談しやすい雰囲気のため、わからない事や、時には仕事以外の話も出来ます。これは新人にとって、働きやすい職場だなと感じています。一言で言うなら職場の風通しの良い所がとても好きです。



勝山学園 (養護係)
須藤 匠さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

新任職員へのメッセージ

まずは1年間お疲れ様でした。全ての事が初めての中、本当に積極的、意欲的に仕事に取り組んで頂きこちらも助けてもらう事が多くありました。子どもの事を真剣に考え、一緒に笑ったり、悪い事をした時は注意をし、時には頑張りすぎて涙を流すなど、子どもに寄り添った支援が印象的でした。仕事をしていく上で今後も辛いことはあると思いますが、みんなで乗り越えていければと思っています。



片瀬学園 (養護係)
小松原 万里さん (6年目)

新任職員へのメッセージ

加藤さんと初めてお会いした時は、さわやか好青年、若い女子にはモテそうな印象でした。この1年、右も左もわからず、忙しい日々には追われながら、どんな時でも子どもたちの話を親身になって聞いていました。

いよいよ4月からは後輩が出来、相談する立場からされる立場に変わります。

子どもたちと同じように親身になって聞き、「褒める」「認める」時には助言やフォローが出来る職員になることを期待しています。



勝山学園 (養護係)
鈴木 綾菜さん
(7年目)

千葉福祉園

Q1. 今担当している仕事について

現在、勤務させていただいているもうえぎ寮は、42歳から92歳までの幅広い年齢の方が23名生活している女子寮です。中重度寮ではありますが、常時、車椅子を使用する方が3名おり、介助を必要とする一方で、精神科を受診し、精神科薬を飲んでいる方も11名います。様々な障害や病気を持った方々が生活しているので、安全面や健康面には特に注意しながら職員間での引継ぎを行い、利用者さんとの関わりを大切に、利用者さんにとって無理なく、楽しく生活できるように支援しています。

日々安定した生活を提供しながらも、時には外出したり、寮内での誕生日会や年忘れ会等の行事を多く取り入れ、潤いのある生活が持てるよう支援しています。

Q2. 今だから言える不安だったこと

私は、短期大学を卒業するまで千葉県に住んでいました。就職を機に千葉県に引っ越し、千葉福祉園に来ました。社会人になり、慣れない土地で仕事をするという事全てが不安でした。しかし、そんな不安を忘れさせてくれる利用者さん達の笑顔に支えられ、今では毎日楽しく勤務させていただいています。

Q3. 事業団のココが好き!

OJT体制により、様々な研修で学ぶことができ、自分の立てた目標への達成状況をチューター職員と話しあいながら振り返り、今後の支援に役立てることが出来ます。



千葉福祉園 (もうえぎ寮)
三澤 有沙さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

新任職員へのメッセージ

この1年を通して一つ一つの仕事を確実に身に付け、時には機転を利かせた支援を行い、私たちも驚くほどの成長を見せてくれました。今後も自分らしい支援方法を身に付けて、頑張ってください。



千葉福祉園 (もうえぎ寮)
杉田 愛子さん (4年目)



七生福祉園

Q1. 今担当している仕事について

私が働いている福祉型障害児入所施設は、主に中軽度の子供達が入所しています。

子供たちが生活しやすいように文字表記や絵表示などを使い、一人ひとりの障害の特性に合わせた環境設定をし、支援を行っています。一日の流れは起床から始まり、朝食・学校・入浴・夕食・余暇時間・睡眠となっています。体調を崩した場合には通院にも付き添っています。休日には子供たちと外出に行き、一緒に楽しく過ごしています。また、子供の成長を間近で見ることが出来ます。昨日まではできなかったことが今日はできたことで一緒に喜び、学ぶことの楽しさを味わうことが出来ます。そして、児童相談所を始め、学校、病院、家族、実施機関の職員の方々と、子供たちの将来をより良くするために連携しています。

Q2. 今だから言える不安だったこと

最初、障害者施設と決まったとき、どこか全くと想像がつかず不安でした。小さいころから関わってはいましたが、職場となると不安で仕方がありませんでした。しかし、やってみなければ分からないという気持ちで強く、気が付いたら七生福祉園に見学へ行っていました。見学に行く子どもたちが歓迎してくれて、不安だったのが楽しみに変わりました。

Q3. 事業団のココが好き!

チューターや先輩職員は、何も分からない私に仕事を丁寧に教えてくれたり、失敗したときも大丈夫だよと優しく声を掛けてくれます。仕事以外でも相談にも乗ってくれます。

チームワークの良い職場に恵まれ、この事業団に入ってからよかったと感じます。これからも初心と感謝の気持ちを忘れず、職場内で力を合わせて頑張っていきたいと思っています。



七生福祉園 (高年3寮)
柳原 実包さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

新任職員へのメッセージ

いつも明るく、場を和ませてくれています。仕事に対しても真面目に取り組む、子ども達のことを常に考え、一生懸命頑張っています。子ども達もすぐに柳原さんのことが大好きになりました。分からないことや悩みなどがあった際には、先輩職員にすぐに相談してくれます。今やすっかりチームの一員となっています。今後も子どもと向き合う姿勢を大切に、来年度入ってくる後輩職員のサポートができる先輩職員になってほしいと思います。引き続き一緒に頑張しましょう。



七生福祉園 (高年3寮)
榊 麻美子さん (4年目)

平成 27 年度 事例研修発表会 実施報告

職員の支援技術の向上を図るとともに、多様な課題への取組を共有するため、事例研究発表会を開催しました。民間施設の職員等を含めた参加者から多くの質問や感想が寄せられ、有意義な発表会となりました。

【児童養護施設】平成 28 年 1 月 29 日 豊島区民センター文化ホール

○基調講演 「児童養護施設実践における自立支援と共生支援～社会的養護でいま問われている課題とは何か～」
立教大学コミュニティ福祉学部教授 浅井春夫氏

○事例発表 「障害を持つ子どもの一般企業への就労定着支援」「家庭復帰に向けた支援」「高校生支援」の3事例

【障害者(児)施設】平成 28 年 2 月 25 日 野分地区民ホール

○基調講演 「利用者の意思を尊重した支援～障害者虐待の防止に向けて～」 関西福祉科学大学教授 津田耕一氏

○事例発表 日中活動や生活の場面における利用者支援、地域移行に向けた取組等 6 事例

